



会員数 20人

6月例会卓話

Noi siamo (ノイ シアーモ) コンサート

とにかく心豊かな時間でした。万人が好きな物も事もあり得ないでしょう、ましては音となるともっと厳しくなります。この時の私の心の状態は唯々深い呼吸を求めていたからか、音楽と言えども素直に受け入れられるであろうかと不安でした。

しかしパイプオルガンの音色とチェロの響きで吹っ飛んでしまいました。ヘンデルの「ラルゴ」はひと昔前往年の歌手たちによるコマーシャルソングで一世を風靡しましたが、ヘンデルの時代に舞い込みオーボエと一緒に歌っている自分がいました。自然と深い呼吸をしながら…。そして偏見なのはわかっていますが、女性のチェリストがこんなに豊かな音を出すなんて感激でした。



オーボエはチャルメラの仲間と聞き、子どもの頃のオート三輪のラーメン屋さんを思い出してニンマリしながらも、中耳炎になり

そうと心配。オーボエ協奏曲の2楽章では、見た記憶のない映画ですが、水の都ベニスの一場面を探していました。すっかり引き込まれている自分を少し恥ずかしく感じました。

日本の歌になった時、みんな知っている曲なのに会員は遠慮がちに歌っていると思っていましたが、我々年代の日本人は間違えることに異常に反応することを忘れていました。キーが合わないと歌うことをやめたり、1オクターブ上へ下へとサーフィン状態で歌う。高齢者用のキーでの演奏は非情に煩雑で、譜面おこしが大変！会員が努力した方が早いですネ。もう一つは学校で習った曲は1番の歌詞しか覚えていないし、カラオケでは歌詞が映し出されているから覚えることに重要性は感じていない(?)歌詞を用意しておくのでした。反省です。

「リベルタンゴ」は圧巻でした。魂の故郷ともいわれる曲ですが、その挑戦的な中に哀しみをもって、ある種の高揚感を誘ってきました。下に流れる8ビートのリズムに元気をもらった気持ちがしました。



最後に演奏は *Noi siamo* (ノイ シアーモ)

オーボエ 緒方 信一 *Shinichi OGATA* チェロ 池田知愛 *Chūhiro IKEDA*、

ピアノ 緒方 なぎ *Nagi OGATA*

以上の方々でした。

(植田)

## 会則等改正のため臨時総会を開く



6月例会「ノイ シアーモ」コンサートの後、会員20名中、出席者18名で臨時総会の成立が報告されスタート、議長に植田会長を選出し、議案の審議に入った。第1号から第4号までの議案は、これまでの検討経過等も踏まえながら松本幹事長が提案理由説明を行った。

第1号議案の「会則の改正」は会場から顧問新設への賛否、例会開始時間記載の賛否が出されたが、開始時間を記載することを条件に採決を行い、可決し、承認を得た。

第2号議案は「役員選考に関する改正」である。事前の調査では現行のままという意見もあったが、複雑でわかりにくい、簡潔にという意見が多く見直しを行ったものである。会場からは選考委員に一般会員の意見を取り入れる、全員を選考委員に、輪番制ですべての会員が役員を担う、投票制にすれば等多様な意見が出された。また会員の年齢構成等を考えて現実的な対応をという意見もあった。結果「選考委員の選出」は今後の検討課題とし、それ以外を採決し、承認を得た。第3号議案「慶弔に関する細則」改正案も自宅療養や新築の範囲等を引き続き検討することで承認され、第4号議案は長命な会員に対応し「表彰制度の導入」を「表彰実施要領」として25年、30年表彰を導入することで承認された。

以上、条件付きの議案もあるが、第一歩を踏み出す臨時総会を無事終了することが出来たことを、会員の皆様のご協力の賜物とお礼申し上げます。  
(内藤)

## 6月例会報告

6月18日、臨時総会のため、いつもより30分早い午前11時半から開会、真鍋会員の指導でストレッチをした後、委員会・同好会報告となり、内藤広報委員長がクラブ創立25周年記念会報の計画を説明、「私が今、興味や関心をもっていること、実行していること」のテーマで、700字程度の原稿を全員参加で書いて欲しいと協力を要請。ほかに書や絵画、手芸などの作品もできるだけ出して欲しいと訴えた。この後、私・安高がショートスピーチ、旅の思い出を話し、卓話は地元で活躍する室内楽トリオ「ノイ シアーモ」の演奏会。オーボエ、チェロ、ピアノの構成で「オーボエ協奏曲」などバロックから「川の流れるように」など歌謡曲まで幅広いレパートリーで見事な演奏を披露、特に最後に演奏した「リベルタンゴ」は圧巻で、個人的に会員だけで聴くのはもったいないなと感じたほどでした。(安高)

## 委員会報告

### 企画委員会

7月2日 7名出席

従来の例会委員会の名称が、6月臨時総会での会則改正で企画委員会に変更されたのに伴って、初の企画委員会開催となりました。

さて、8月例会卓話は暑気払いのため休み。9月は、グランド・シニアのいきいき対談「健康管理について」と決まりました。出演は93歳の吉田信雄さん、89歳になる古賀靖子さんの、会員の男女各最高齢者に登場していただきます。私・松本の進行で、お二人に約20分間ずつお話し願って、その後は会場から質問を受けて全員対話型の会員卓話としたいので、会員の皆様のご協力をよろしく願いいたします。(松本)

### 交流委員会

7月9日 8名出席

17時30分よりリーセントホテルにて開催。何時もの湖月堂が予約出来ないため会場が変更になりました。

議題は暑気払いの詳細の確認。当初、交流委員のメンバーでハワイアンを披露するつもりでしたが、練習会場確保が難しく、会員全員で教えてもらいながら踊ることにしました。次に細かく担当割を決め、全員参加型の楽しい暑気払いになるようにメンバー同頑張ります。

次年度も交流委員長吉田(秀)、副委員長柴村で担当することを承認してもらいました。その後はいつもとは違った料理で生ビールを飲みながら談笑して散会しました。(柴村)

### 広報委員会

7月1日 6名出席

梅雨空の下、12時30分から語りながら昼食をとってスタートです。つながり号8月号の編集会議からつながり7月号の校正と会議は進みます。25周年記念会報の紙面構成原案もじっくりと検討を行い、やっと方向性が見えてきました。表紙写真は梅雨時でもあり、晴れ間を狙っての素敵な作品が届くことでしょうし、12月発行までの工程なども確認して会議は終わりました。(内藤)

## カラオケ同好会

6月21日11時から浅野パティオに4名が集合しカラオケを楽しみました。それぞれに昼食をとり、カラオケルームで自慢の喉を披露。往年のスターの名曲に挑戦。裕次郎、村田英雄、大津美子などの懐かしい歌で盛り上がりました。皆さんの参加をお待ちしています。(安河内)

## 歌をうたう会

梅雨の真っ只中、線状降水帯の発生が予測されていた6月28日15時から西小倉市民センターで開催。だが、行き帰りとも傘の必要がないほどだった。

全員参加でまずは、横隔膜を刺激する吸気3拍、呼気7拍を。次いで声出し「ア、イ、ウ、エ、オ」。オのみは口奥の咽頭入口周辺がほの温かく感じ、他は顔の筋肉を鍛えるということ。合唱は8月の暑気払いに披露する3曲のおさらい。なかなか上手くいかない。最後は起立姿勢で3曲を通して歌う。来月からの練習曲、二部合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」の「故郷」をその時代を心にとめながら歌った。(古賀)



## 歴史文学講座

史学博士廣崎篤夫先生による2回目の講座を6月25日、10時から松本清張記念館で開きました。参加者はゲスト3名を含む9名で、演題は「戦国争乱の北九州・名城花尾城筑前の名族・麻生一族興亡史」。

廣崎先生は、平安中期関白太政大臣藤原道兼(藤原道長の兄)の末裔と言われる麻生一族が戦国時代の北九州の地にあって、山口の毛利元就と大分の太田宗麟の勢力にはさまれて戦乱に巻き込まれ、やがて黒田家の家臣になる様子を生々しく語ってくれました。

今回は8月27日で、テーマは黒田長政の謀略によって滅ぼされた宇都宮一族のお話です。会員の皆さんの来聴、大歓迎です。(松本)

## ワインを楽しむ会

6月23日午後6時ブラスリー・リップに於いて10名の参加者で開催。今年の梅雨は1日中雨の降り方に緩急がある独特さを感じられる。出向く時間には、やや強い雨脚であった。実は3年半講師の山下博会員は、諸事情により出席が叶わず、ipadを通しての参加であった。全会員の強い要望で、今回からご出席。両者の楽しみが倍増、期待も膨らんでいたが、突然の体調不良で直前に欠席の連絡。ワインの資料作成、調達はされていたので、講師に代わり私・古賀がワインの解説をした。まずは軽くカルフォルニア産の白ワイン、次はフランス、ブルゴーニュのワイン、これは表ラベルのデザインが英国芸大の著名な2者の合作、辛口のミディアムボディ。続いてカルフォルニアのカベルネ・ソーヴィニオン、フルボディ。ラベルは「ウルフ(狼)」。料理はそれぞれのワインにマッチしたものを入江マスターが腕を振るって下さった。今回から元会員小林繁人が参加される等、会場は大変な盛り上がりであった。(古賀)



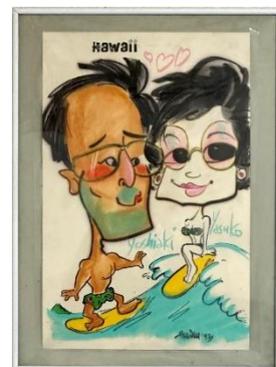
## 人生最後の海外旅行

No.88

古賀靖子

1935年生まれの私が、初めて海外旅行をしたのは53歳(1988年)の時である。その時代では少し遅い海外旅行であった。それには前年ガンを発症、リンパに転移した状態での手術という理由があった。そこで選んだのが一番手近で、日本人向きのハワイを選び、行く先々の環境と病状を考えながらの旅であった。

それから35年経った昨年11月に米寿とダイヤモンド婚の祝宴をもったが、この年齢では思い切った海外旅行もできないので、振り出しに戻って思い出のハワイに夫婦で行くことにした。ところが、思いがけない息子からの提案で、息子、孫娘、私ども夫婦の4人で2月末から3月に6泊7日の家族旅行をすることができ、人生の締めくくりとして大変有り難いプレゼントでした。時間が沢山ある今日ですが、楽しみを二度味わいたいと、まだ写真の整理も出来ていません。



初回のハワイ記念の似顔絵



自分自身のご褒美として「喜寿祝いの旅」をしました。行き先は奄美大島のすぐ隣に位置するサンゴ礁が隆起してできた離島で、今なお隆起が続いているという小さな喜界島。

平安時代に僧俊寛が島流しで送られたところで有名です。実は今回で2回目。以前訪れた時の印象があまりにも良かったから。自然の美しさが地元の自慢であり、誇りです。島民の皆さんも親切で、今回も本当に心から落ち着かせてくれました。島を一周する定期バスもあり、バス停で無くて手も挙げて乗車の合図すれば止まってくれます。島一周 300 円、運転手とお客はすぐに顔なじみになり和やかな雰囲気になります。



▲写真はヒメタツナミソウ



今回は、喜界島にしか自生していない希少な植物「ヒメタツナミソウ」という小さな花と出会えたこと、ホテルの女性オーナーが島の友人と花を見に行くというので、一緒に車に便乗させていただくという幸運に巡り合った。そして高台の公園からは、隆起したサンゴ礁の麓に生えている花を、一人では絶対見つけられない小さな植物をじっくりと鑑賞でき満足しました。

実は、もう一件は熱海、小田原の旅。これは甥から有名なホテル宿泊優待券が届き、かねてから行きたいところだったため、早速、パンフを取り寄せ美術館巡りを中心に計画。当日、駅の観光案内で行きたい美術館までのルート聞いたところ、この日は室内の展示品の入れ替えのため休みでがっかり、係の女性が代わりに教えてくれたのが「池田満寿夫記念館。観光客は少なく、アトリエや地下に設けられたバイオリン練習室などゆっくりと見学ができたことが幸運でした。

以上がショートスピーチの概要ですが、小田原城と熱海の観光と温泉、また近くの箱根芦ノ湖などと一気に観光地として再び蘇っているようですね。よし私も平塚に妹がいるので、行ってみたいくなりました。(眞鍋)

トピックス

茶道クラブ「菜の花」が発足

6月22日午前11時30分から茶道クラブ「菜の花」の発会式を行いました。8名の会員が古賀会員宅の茶室に集まり、発会挨拶の後簡単な打ち合わせをして茶巾寿司を頂いてお茶室に入りました。初心者も多いのでどういったお稽古をしていくかを話し合い、初歩のお菓子とお茶のいただき方を古賀講師に教えてもらいながら始まりました。

講師から素晴らしいお茶道具の説明等を聞いて皆感動しきりでした。稽古が終わった後もコーヒーを頂きながら話して花が咲き、3時間あっという間に過ぎてお開きとなりました。

次回は7月27日11時30分からです。(柴村)

ありがとう BOX メッセージ 6 月分 (入会順、敬称略)

★感謝です(遠藤) ★体力の続くかぎりーと意をかためて!(大川) ★梅雨に入り、特に熱中症には気を付けていきます(古賀) ★素敵な音楽でした(吉田秀子) ★(松本) ★(植田) ★(眞鍋) ★今年の梅雨は遅すぎる(吉田信雄) ★(安高) ★熱中症対策を怠りなく、水分補給を上手に(橋本) ★新しい同好会「茶道クラブ菜の花」楽しみです(柴村) ★今日の演奏会とても楽しかったです(藤原) ★素敵な音楽で気持ちが洗われました(新城)

収支報告	令和6年5月末残高	160,537円
	令和6年6月分	6,650円
	令和6年6月末残高	167,187円